

出題分析			
試験時間	100 分	配点	200 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>昨年に引き続き、英文読解問題 3 題、日本語読解問題 1 題、自由英作文問題 1 題という構成であった。読解問題は例年の傾向通り、時事的なテーマに経済学的な視点を交えた英文が出題された。I と II はダム建設の是非、III は地熱発電の利点について述べた文章であった。IV は有機廃棄物によるエネルギー生産について述べた日本語の文章で、III の文章と内容的に関連している。I～III は、空所に語句や文の一部を補充する設問が大半を占めるが、筆者の見解を問う設問や、慣用句の意味を問う設問なども出題されている。例年出題されていた発音・アクセントの知識を問う設問は、今年は出題されなかった。V の自由英作文では、I～IV の長文の内容に言及・反論し、自分の意見を主張しなくてはならない。論理、文法の両方に気を付けて解答することが求められる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 「ダム建設がもたらす恩恵」	設問数は昨年と同じく 11 問であった。設問 5 を除き、英文中の空所に入る語句や文の一部を選択する問題である。設問 5 は本文の内容をもとにして、筆者の見解に沿った選択肢を選ぶ問題である。	標準
II	長文読解問題 「ダム建設が与える悪影響」	設問数は 12 問であった。I と同様に空所補充問題が中心である。設問 22、23 は I と II の英文それぞれの著者の見解に合うかどうかを選ぶ問題であり、両方の英文の内容を整理する必要がある。	標準
III	長文読解問題 「地熱発電の利点」	形式は I、II と同様で、空所補充問題を中心とした 10 問から成る。I、II の内容と関連しつつも、異なる話題を取り上げた文章であった。設問 28 では、文章中の数値を用いて計算をする必要があった。	標準
IV	長文読解問題 (日本語) 「有機廃棄物の利用」	日本語の文章を読んで英語の設問に答える問題で、設問数は 4 問である。解答にあたっては III の文章も参照する必要がある。	標準

設問別講評			
V	自由英作文	I~IV の読解問題のテーマに関して自分の意見を英語で述べる問題である。例年通り、自分の意見と異なる見解に言及し、それに反論することと、問題文 I~IV の内容を取り上げることが条件として与えられている。I~IV の問題文の内容理解も必要となるため解答は容易ではないが、十分対策を積んで試験に臨みたい。	標準

合格のための学習法
長文読解問題には記述解答を求める設問がないが、自由英作文問題は読解問題の内容を基に書かなければならない。そのため、普段の学習から、経済学部で出題される傾向にある、現代社会が抱える問題を扱った英文や日本語の文章を読むようにして知見を深め、どのようなテーマが出題されてもある程度自分の意見は述べられるように準備しておきたい。求められる読解力は、単熟語のレベルも含めて標準的なものなので、英作文の対策を入念に行うことが合格のカギとなる。